

群 教 セ	G01-03
	平 17.230 集

感想文を書くための支援教材の作成と活用

－ 自分の考えを文章で表現しようとする力の育成を目指して －

特別研修員 坂本 裕子 （甘楽町立第一中学校）

《研究の概要》

本研究では、中学校国語科「書くこと」において、文学教材を学習した後に感想文を書くための支援教材を作成した。作成にあたっては、書くための視点を質問の形式で示し、ヒントとして書き出しの文例も示して、書くことが苦手な生徒も自分で書き進められるようにした。本教材を使って感想文を書くことにより、生徒の書くことへの抵抗感を減らし、自分の考えを文章で表現することができた。

キーワード 【国語—中 書くこと 感想文 文学教材 Web 形式】

主題設定の理由

中学校学習指導要領では人間形成に資する国語科の重要な内容として「伝え合う力」の育成・向上の必要性が述べられている。「伝え合う力」とは、適切に表現する力、正確に理解する力の総合力であり、伝え合うことによって豊かな人間関係を構築したり、自分の考えを広げたりすることができる。伝え合うためにまず必要なことは、伝えるべき内容、つまり、自分なりの考えをもつことが重要だと考える。そして、それは、感じたことや考えたことを文章に書くという表現活動を通してより明確にすることができる。そのため、伝え合う力を育成するためには、まず考えを明確にし、表現するための書く力の育成が重要であると考え。

本校の生徒は話すこと・書くことという表現活動を敬遠する傾向がある。アンケートからは書くことに対して、面倒だ、何を書いていいかわからない、漢字が書けない、字を書きたくない、書き方がわからないなどの理由から、特に避けようとしていることが分かる。そこで、自分の考えを文章で表現しようとする力を育成し、「様々な材料を基にして自分の考えを深め、自分の立場を明らかにして論理的に書き表す能力を身に付けさせるとともに、文章を書くことによって生活を豊かにしようとする態度を育てる。」という中学校2・3年生の「書くこと」の目標達成を目指したい。

自分の考えを表現するための支援として、考える視点や書き方を示すことが必要だと考えている。文章が書けない生徒は、何を書いていいかわからようである。対話をしながら考えを引き出すと書

き進めることができるので、表現させたい視点や内容をあらかじめ質問として用意し、生徒はそれに答える形式にすることがよいと考えられる。また、コンピュータで書くことにより、生徒が面倒だと考えている手間を軽減することができるため、書くことに対する抵抗感を減らし、考えを表現することに意識を向けられると考える。このような支援教材を作成して活用すれば、自分で感想を書き進め、自分の考えを表現しようとする力を育成できると考え、本主題を設定した。

研究のねらい

中学校国語科の文学教材の指導で、感じたことや考えたことを文章で表現するための支援教材を作成し、活用することによってその有効性を明らかにする。

研究の見通し

コンピュータを利用し、質問に答える形式や書くヒント・手順を取り入れた感想文を書くための支援教材を作成して活用すれば、生徒は書くことへの抵抗感を減らし、感じたことや考えたことを文章で表現しようとすることができるであろう。

研究の内容

1 感想文を書くための支援教材の概要

(1) 基本的な考え方

本教材は、中学2年生の国語科、「人間として生きる」という大単元のなかの「夏の葬列」という

文学教材のまとめの段階で使用する。文学教材を学習した後で、自分の思いや考えを文章で表現させることを目的としている。

本教材は、Web 形式で作成する。それぞれの質問とヒントをリンクさせ、感想文は一つのワークシートに書き重ねていく形式とする。質問を変更することにより他の教材や一般的な読書感想文に応用することもできる。

そして、書いた感想文を電子掲示板で伝え合うことにより考えを広げたり、表現力を高めたりすることができると思う。

ア 考えを表現させるための工夫

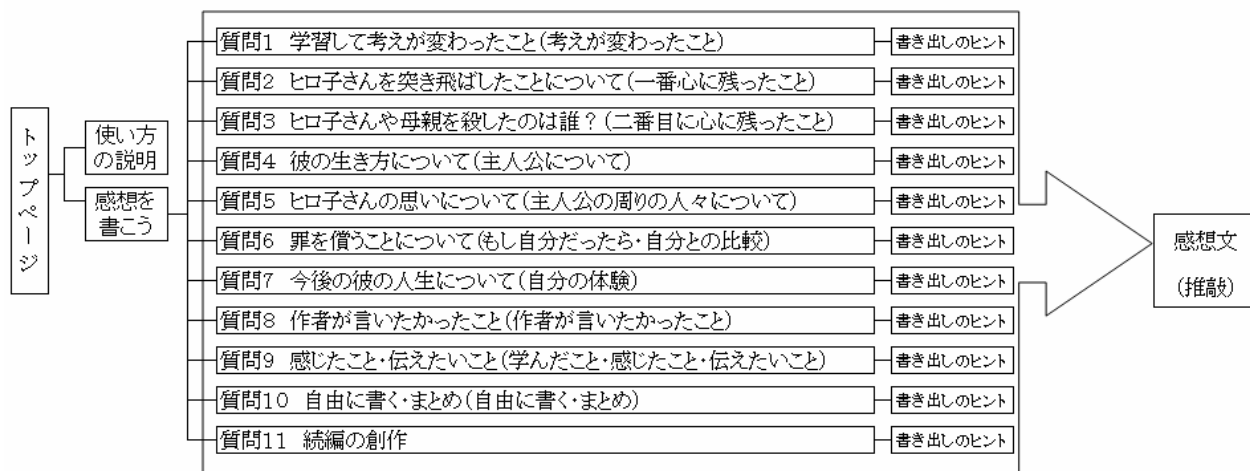
本校の生徒が文章を書くことを嫌がる大きな原因の一つは、書くことに関わる面倒な手間にある。字を書くという作業、漢字を調べるという作業、推敲し、清書する作業である。生徒の話や授業の様子から、このような手間を考えたときに、生徒は書くことや考えることまで放棄してしまうと推察する。そこで、本教材では書くことに関わる部

分をできるだけ減らし、何を考え、どのように感じているのか、などを表現することに重点を置く。また、考えを引き出す手だてとして、質問に答えるという形式にする。

イ 個に対応するための工夫

書くことに対する個人差は大きく、「書くことが得意」という生徒は少数である。特に感想文のように、自分の考えを表現するとなると尚更である。そこで本教材では段階を三つに分け自分の能力に応じて、自分で選べるようにした。自分で書き進めることができる生徒は、手書きするような感覚で、自分の書きたいように感想を書いていく。自分では何を書いているのか分からないという生徒は、示された質問に答える形式で書き進めていく。質問があっても書けない生徒には、書き出しのヒントを示し、それを参考にしながら書き進められるようにする。書くことが苦手な生徒が自分で書き進められることを目指しているが、生徒の個人差に配慮する。

(2) 構成図



注 () の中は質問の変更例である

図1 トップページ

2 支援教材の内容

(1) トップページ

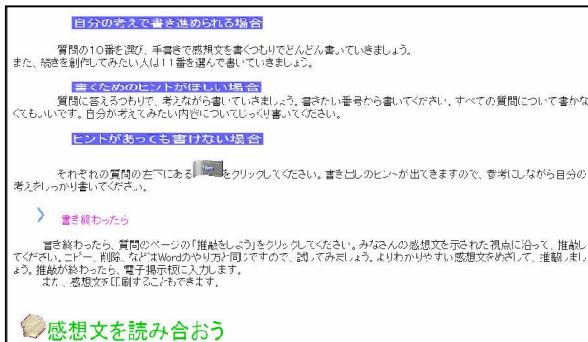
トップページ(図1)には、「感想文を書こう」、「使い方の説明」の二項目を作成し、それぞれリンクを設定した。「感想文を書こう」からは、感想文を書くための質問の一覧に進む。



(2) 使い方の説明

「使い方の説明」(図2)のページでは、使い方や注意すべきことについて説明した。また、自分でコースを選択したり、使い方を把握したりできるようにした。

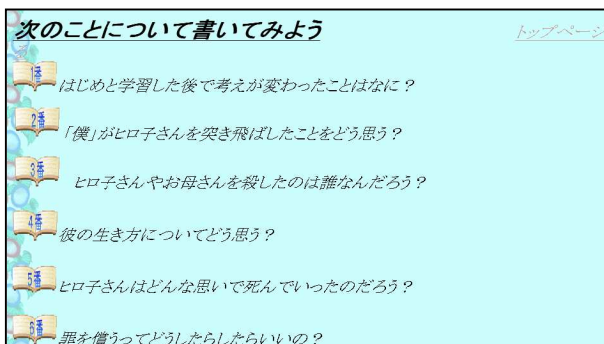
図2 使い方説明のページ



(3) 感想文を書こう

「感想文を書こう」をクリックすると質問の一覧が表示される(図3)。文章が書けない生徒は何を書けばいいかわからないといことが多いため、生徒に書かせたい内容や気付かせたい視点で問いかけし、それに答えるような形式で書き込んでいく。一つの質問について書き終わるごとに上書き保存し、トップページに戻ってから次の質問に進む。質問は11番までであるが、10・11番は質問がなくても自分で書き進められる生徒のために用意した。10番は自由に書くための質問であり、質問

図3 「感想文を書こう」の問いのページ



3 授業実践計画

- 対象 甘楽町立第一中学校 第2学年
- 単元名 人間として生きる 「夏の葬列」
- 単元の目標
 - ・ 強い状況の中に生きる人物をとらえ、人間としての生き方を考える。
 - ・ 作品の展開と表現の特色に注意して読み、主人公の心の動きをとらえる。
- 単元計画(全9時間)

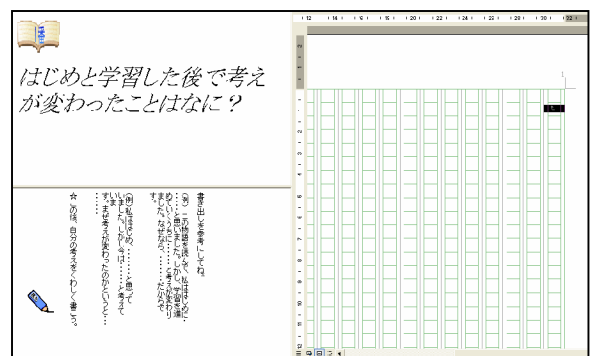
に沿って書き進めた生徒がまとめとして利用することもできる。11番は物語の続きを創作する質問である。

問いかけをしても書けない生徒の支援としてヒントを用意した。「ヘルプ」をクリックすると書き出しの例文が2～3例、示されるようになっているので、それを参考にして書くことができる。

書きたい質問の番号をクリックすると、その質問が拡大され、書くスペースが表示される。「書き始める」をクリックすると文書作成ソフトで作成した原稿用紙が表示されるので自分の考えを入力する(図4)。また、削除、コピー、入れ替えなどの作業を簡単に行うことができるので、書き換えも楽に行うことができる。

生徒は全ての問いに答える必要はなく、書きたい問いだけを選んで、書きたい順に書けるように作成した。

図4 感想文を書くページ



書き終わったら推敲のページに進み、示された推敲の視点に沿って、自分の文章を直していく作業に入る。削除、入れ替えなどが簡単にできるので、作文直しは手書きよりやりやすい。終了すればまとめた感想文となる。仕上がった感想文は原稿用紙の書式なので、「感想文」というファイルからそれを印刷することができる。

時間	主な学習活動 (下線部はコンピュータ室で学習する場合を示す)	指導上の留意点や支援 個に応じた指導の工夫にかかわることなど
1	作品を読んで、印象に残った登場人物や出来事、表現について感想を書き、発表し合う。	自分なりの感想を大切にしよう指導する。 ・難語句などは辞書を使って調べさせる。
2	場面の構成について考え、その特徴について話し合う。	・一行空きを手がかりとして構成をつかませる。 ・登場人物、過去と現在の確認をすることにより物語の内容をつかむ手がかりとさせる。
3	1・2場面のできごとと主人公の心情の変化について読み取る。	・比喻表現や作者独特の表現の仕方に気付かせる。 ・おれ、僕、かれの使い分けに着目させる。
4	3場面のできごとと主人公の心情の変化について読み取る。	・比喻表現や作者独特の表現の仕方に気付かせる。 ・おれ、僕、かれの使い分けに着目させる。
5	4・5場面の、できごとと主人公の心情の変化について読み取る。	・比喻表現や作者独特の表現の仕方に気付かせる。 ・作者の気持ちの変化を感情曲線を使ってつかませる。
6	最初と最後の場面を比較し、主人公の思いについて話し合う。	・情景描写に着目し、文章から読み取れることを確認しながら学習させる。
7	主人公はこれからどう生きていくのか、この物語からどんなことを感じたかなど、感想文を書く。	・コンピュータや支援教材の活用の仕方を分かりやすく指導する。 ・コンピュータを活用して、自分なりの考えや思いを表現させる。 書くための支援教材を活用する際、自分でコースを選んで進められるようにする。 コンピュータの操作能力の差を考慮し、机間巡視で支援する。
8	主人公はこれからどう生きていくのか、この物語からどんなことを感じたかなど、感想文を書く。	・コンピュータを活用して、自分なりの考えや思いを表現させる。 コンピュータの操作能力の差を考慮し、机間巡視で支援する。 ・視点を示して、推敲の手がかりとさせる。
9	感想文を読み合い、様々な考え方に触れる。	・感想を書き込むにあたっては、相手の気持ちを考えて書くよう指導する。 ・たくさんの感想を読んでみるよう、声をかける。

4 検証計画

検証の観点	検証の方法	処理・解釈
- 書くことへの抵抗感を減らすことができたか。 - 自分の感じたことや考えたことを表現することができたか。	- アンケート - 取り組みの様子 - 作品 - アンケート	- 事前と事後のアンケートを比較することにより、意欲の違いを判断する - 作品の中で考えが書いてある部分の割合を調べる。 - アンケートによる自己評価を分析する。

5 授業実践

- 本時のねらい 支援教材を活用して、「夏の葬列」に対する自分の考えや思いを文章で表現する。
- 準備 生徒—教科書、筆記用具、ファイル
教師—支援教材・フロッピーディスク・原稿用紙(手書きを希望する生徒のため)
- 利用環境 Microsoft Office Word 2003 Microsoft Internet Explorer
- 場所 コンピュータ室
- 展開

学習活動	時間	指導上の留意点	評価項目(評価方法)
1. 感想文を書く目的や支援教材の活用の仕方について知る。	10	・感想文を書く目的について説明し、原稿用紙を埋めればよいという考えから脱却させる。 ・コンピュータの扱いが苦手な生徒にも分かるよう説明の仕方を工夫する。	・支援教材の活用の仕方が分かったか。(観察)
2. 電源を入れ、支援教材を開く。	5	・教え合いながら作業するよう指導する。 ・机間巡視を行い、画面を確認するとともに、うまく開けない生徒に対しては個別に支援する。	・支援教材を開くことができたか。(コンピュータの画面)
3. 感想を書く。	30	・じっくり書くよう声をかける。 ・コンピュータでは書けないという生徒には、手書きをしてもよいと声をかける。 ・コンピュータにトラブルが起きたときは、空いている台に移動して継続させる。 ・思いや考えたことを書くよう指導する。 ・机間巡視を行い、画面を確認するとともに、書けない生徒に対しては個別に支援する。	・自分でコースを選んで感想文を書こうとしているか。(観察・書いた感想)
4. 書いた文章を保存する。	5	・途中の文章の保存方法について確認し、確実に保存させる。終了の操作について指導する。 ・次時に続きを書くことを確認する。	・感想文をフロッピーに保存することができたか。(観察・フロッピーディスク)

実践の結果と考察

1 書くことへの抵抗感を減らすことができたか

本校の生徒の書くことへの抵抗は非常に大きい。「書くことは嫌い」「どちらかという嫌い」を合わせると 80%、「書くことに苦手意識を持っている」という生徒も 70%を超えてしまうという状況であった。

これらを解消し、書くことへの抵抗感を減らすと考え作成した本教材を使って感想文を書いたところ、「コンピュータの方が書く気になった」が 80%、「楽しかった」「どちらかという楽しかった」が 93%となった(図 5・6)。コンピュータを使うことへの興味もあると思われるが、それにしても感想文を書くことに対する抵抗感を減らすことができたと言える。生徒の感想からもその意欲を感じることができた。また、普段なら書くことに不平不満を述べる生徒も集中して取り組み、キーボード入力の音が響くような授業(図 7)であった。しかし、コンピュータ操作に苦手意識を持っている生徒、日頃から書くことに慣れている生徒は戸惑いも感じていたようである。

図 5 コンピュータと手書きではどちらが書く気になるか。

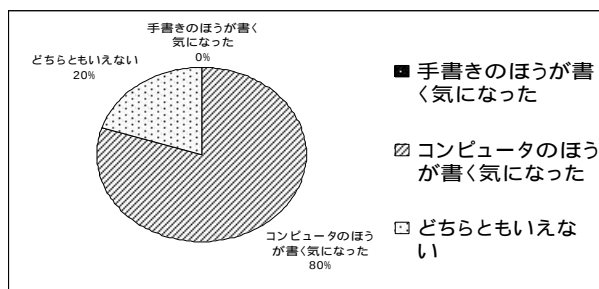
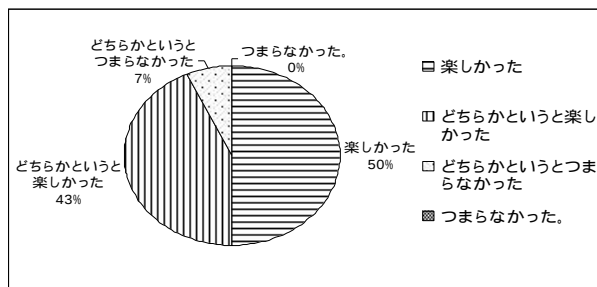


図 6 コンピュータを使って書いた感想



○ 生徒の感想

- ・とても書きやすかった。今回は楽に書いて楽し

みながらできた。

私の場合 1 回で決まるのではなく、何度も考え直して、書いて消してを繰り返す書き方なので、手書きは面倒になる。

- ・消すのも書くのも簡単だし、早くできるから流れるようにできて頭を書くことが出てきやすい。
- ・漢字の変換や間違ったときは結構楽でいいけれど、いつも手書きだからとまどった。慣れるまでに時間がかかった。

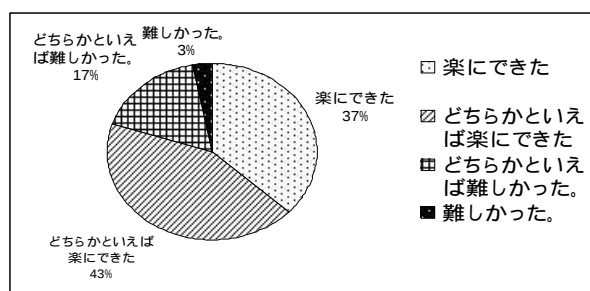
図 7 授業の様子



2 自分の感じたことや考えたことを文章に表現することができたか。

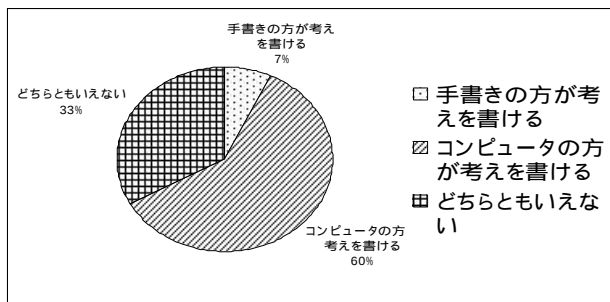
書くことに対する抵抗感が強い生徒たちであるが、支援教材を使ったことにより、図 8 で示す通り「難しい」という意識を軽減できたと考える。

図 8 支援教材を使って書くのは難しかったか



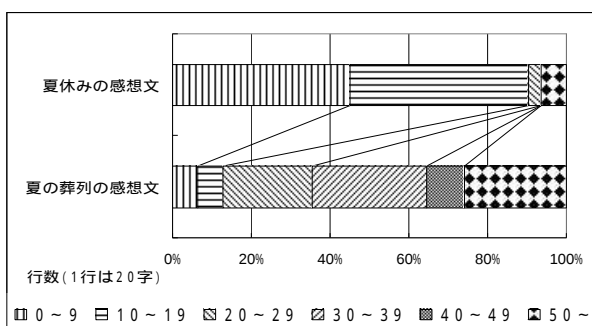
しかし、考えを表現することに対しては、図 9 のように感想が分かれた。「手書きの方が考えを書く」と答えた生徒は約 7 %と少なく、書くことに対する能力が比較的高く、日頃から書くことに慣れ親しんでいるという傾向がある。「どちらともいえない」と答えた生徒はコンピュータに苦手意識をもっている生徒と前述のように書くことに抵抗感をもっていない生徒だった。また、「コンピュータで支援教材を使った方が考えを書くことができた」という生徒は約 60%と半数を超えた。その理由として質問形式であったこと、書き出しのヒントがあったことを挙げている生徒が多かった。考えたこと、思ったことはあるがそれをどのように書いたらいいのか迷ってしまい、なかなか書き出せない生徒には、支援教材が表現するための手だてとなったようだ。

図9 手書きとコンピュータの比較



また、仕上がった感想文を読んでもとらずじよりも自分の考えや思いが表現されているように感じられた。全員が読んでいたので内容を紹介する必要がない点、授業で取り組んだ点などから厳密には比較にならないかもしれないが、夏休みに宿題として提出させた読書感想文と内容（感想が書いてある行数）を比較してみたところ、図10のグラフで示す通り、支援教材を使って書いた方がはるかに考えや思いを表現できていることが分かった。文章としては夏休みに書いた感想文の方が長いが、考えや思いを書いた部分は支援教材を使った方が多い。このようなことから、感想を書くのに本教材が有効であったということができると考える。コンピュータを使ったことによる意欲の高まりと関連して、効果を上げることができたのではないかと考えている。

図 10 夏休みの感想文と夏の葬列の感想文の感想が書いてある行数の比較



- 生徒の感想
- ・ ヒントとかを見て参考にすることができたのでいつもより早く文を作ることができよかったです。
- ・ いつも感想文で、どんなことをかけばいいのかすごく迷ったけれど、今回は文を書く前に「文の書きはじめ例」などがあったのでいつもより書きやすかったです。

- ### ○ 生徒の作品

書くことに対して拒否感を持っており、書く能力も低位層の生徒(ふだんの作文は3～4行程度)の感想文

[illegible]

研究のまとめと今後の課題

コンピュータを使って感想文を書くことは生徒の抵抗感を減らすのに有効であった。そして、本教材を活用することで、生徒の考えを引き出し、文章で表現させることができたと考える。しかし、書く力の個人差に加えて、コンピュータ操作能力の個人差にどう対応していくか、国語科としてコンピュータを活用する場をどう設定するか、考えていく必要がある。また、表現した考えをどのように伝え合っていくのか、伝え合うことによりどのように考えを広め深めていくのかが今後の課題であると考えている。

< 商標 >

Microsoft Office Word および Microsoft Internet Explorer は Microsoft 社の米国およびその他の国における登録商標です。

(担当指導主事 根岸 卓)